

全世界に新型コロナウイルス感染症の蔓延する中ですが、例年より暖かな日が続きが咲き始めたこの日、大阪成蹊大学第十五回卒業式・学位授与式を迎えることができました。

経営学部、芸術学部、教育学部卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。また教育学研究科修士課程修了生の皆さん、課程修了おめでとうございます。皆さんは、この四年間、二年間それぞれの学部、研究科で設定しているディプロマポリシー（学位授与の方針）にしたがって実践的な学びを深めてきました。その集大成として一月以降すべての学部・研究科で卒業研究発表会、卒業制作展、修士論文発表会が行われました。そこでは内容について厳しい指摘もあったかもしれませんが、議論の交わされる発表会ほど内容の充実を示すものといえます。学びの成果については大いに自信をもっていたただきたいと思いません。

新型コロナウイルス感染症のCOVID-19は昨年の当初から世界中に蔓延し始め、四月はほぼ全面授業休止となりました。五月より開始された前期授業は遠隔授業となる中で、皆さんの卒業研究・制作の実施は大変困難であったことと思います。学園としても初めての経験となる遠隔授業でしたが、学生諸君の意欲的な学習姿勢に依拠することができ、従来とは異なる新たな学びの形態を作り出すことができました。六月以降は感染を防ぐ努力を続けながら、専門演習を手始めとして対面授業も開始され、学外活動を除く大学の授業をほぼ正常に続けることができたのは素晴らしいことだと思います。

COVID-19はパンデミックとなって世界に広がり、最近ようやくワクチンが次々に開発され使用が開始されました。しかし新たなウイルス変異株の発生もあり、まだまだその収束は見えていません。ヒトへの感染力が強いウイルスが新たに発生し、それが世界的流行へと変化する現象は、人やモノそして資金が世界中を自由に飛び交う現代社会では、ある意味では必然的な現象と言えるものかもしれません。今回のパンデミックが一定の終息を見せた後でも、今後新たなウイルスによるパンデミックが発生することも十分あることです。現在も続くCOVID-19やあらゆる感染症の蔓延を防ぐためには、社会の中で生活パターンを変えることや危機管理対応の充実が求められています。

さて、今年二〇二二年は戦後の日本が経験した最大の災害、東日本大震災から十年となります。一万八千人以上の方が死亡または行方不明となりました。皆さんとともに改めて哀悼の意を表したいと思います。先月、思いもよらずその余震とされる福島県沖地震が発生し驚かされましたが、昨日もまた宮城県沖地震が発生し、一帯に被害をもたらしました。大きな地震で津波が襲来する可能性もありましたが、さいわい津波被害が発生することはありませんでした。しかし西日本で近い将来、発生するといわれる南海トラフ巨大地震を考えると、皆さんも身近な問題として地震と巨大津波への警戒心を持ち、防災上の適切な対応策を立てておくことが必要です。

また、巨大津波による原子力発電所メルトダウン事故は、十年たった現在でも多くの課題を残したままとなっています。最近、原子炉建屋の爆発に伴って飛散した大量の放射性物質の一部分が、原子炉格納容器の上に集中して蓄積されたままであることがわかってきました。原子炉解体の作業も始まってはならず、廃炉への道筋は不透明なままです。放射能汚染の低減は一〇〇年から三〇〇年かかるといわれ、被災地の完全復旧と被災者の帰還などには多くの課題が残されていることはとても残念なことです。

ところで、科学技術の発展の中で情報社会はAI（人工頭脳）やビッグデータが活用される新たな社会に変わっていきます。そのような生産様式や経済が大きく変わる時代、卒業される皆さんには、絶えず学び続ける姿勢を堅持し、平和で健康な社会の発展のために貢献していただきたいと思っています。

本学ではこれからの社会を考える基盤として、この数年、国際連合が決定した「持続可能な開発目標（SDGs）」の学びに取り組んできました。この中には我々が直面している地球温暖化、プラスチック汚染などの地球環境問題、格差や貧困の問題、性差別や不平等の是正、働きがいや経済成長など十七項目の開発目標が掲げられていて、全世界でその取り組みが進められています。

国際的にはGAF Aをはじめとする巨大IT企業のSDGsへの貢献が知られています。日本の国内企業でもトヨタ自動車など多くの製造業などで取り組みが進められています。とりわけ地球温暖化は地球環境問題では待ったなしとされる課題ですが、国会でもようやく昨年十一月衆・参両議院で気象非常事態宣言が採択され、国際的な連携が始まりつつあります。

持続可能な開発目標SDGsは二〇三〇年をめざして、残りあと十年です。しかし、そこに掲げられた目標は世界のすべての人々の将来に関わっているだけでなく、すべての生命を育んでいる地球そのものの未来にも大きくかわっています。引き続き、SDGsへの皆さんの持続的な関心と寄与を期待したいと思います。

最後に、皆さんの卒業する大阪成蹊大学の今後の発展について述べたいと思います。再来年度には経営学部国際観光ビジネス学科は新たな学部、国際観光学部となります。さらに令和五年に向けてデータサイエンス学部・看護学部の設置計画が進んでいます。もう一年後には社会学部の設置へと大きな発展を目指しています。このように大阪成蹊大学は未来に大きく発展する大学として存在感を発揮していきます。ご期待ください。

卒業生の皆さん、改めて本学園の建学の精神（桃李不言下自成蹊）を踏まえた大学での学びに確信を持ち、他を思いやる誠実な心を持った人として、社会で活躍していただくことを期待して、卒業のお祝いいたします。

二〇二二年三月二二日

大阪成蹊大学 学長 武蔵野 實